

10 土田麦僊《三人の舞妓》再現模写

2024年～会期中制作公開
墨、顔料、金銀泥、絵絹

〔原本〕三人の舞妓
大正8年
絹本彩色　＊焼失
（私見メモ）　3年前と同題で舞妓を描いた作品。再び料亭「一力」で舞妓に取材し、3年前のスケッチに見られる強い赤色から、徐々に落ちついた朱色へと変化している。また何度も同じポーズでスケッチを繰り返すことで、より線描が洗練され、簡潔で必然な線が生まれている。佐渡博物館にほぼ最終段階の下絵が残されているが、他にも同じ段階の下絵があり、本画制作前に綿密に準備に取り組む麦僊の姿勢を示している。
本作でも《松浦屏風》から引用し、お茶碗を捧げ持つ女児が描かれているが、この頃は、平安後期仏画や、ジョット、フラ・アンジェリコなどのキリスト教絵画に感心をしめしており、写実的で淡いパステルカラーの色彩や、深い精神性を感じさせる舞妓の表情などに影響がみられる。もともと平安後期仏画は中国宋元画の影響を受けており、大正8年の《3人の舞妓》の中で、それぞれの文化が調和されていくような麦僊の理想の世界観が感じられ、大正5年の作とは異なった趣をみせる。麦僊32歳の時の作品。

11 伝【真作】土田麦僊直筆素描「舞妓」

2025年
ヤフオクで落札した絵画(【真作】土田麦僊直筆素描「舞妓」)を額装

12 AQUOS携帯[SHARP SHG03] 模写

2024年
墨、顔料、黒谷和紙

13 (私)回想録 ― 2月5日について

2025年2月5日
墨、顔料、黒谷和紙

火事の後、ホテルは経営者と名称を変えて、すぐに再建されましたが、長くは続かずに閉館し、その後はずっと更地で放置されていました。近年、跡地は再開発され、フットボール場と地元物産店、市役所の出張所や図書館などの複合施設となっていました。

14 土田麦僊未彩色面

2024年
和紙

① 肌色想定に使用した絵具皿

② ワークショップ記録映像「土田麦僊のお面づくり」
2024年4月20日(土)に開催した、天一美術館でのワークショップの様子
2025年
映像(5分19秒)
本展用映像制作協力:Gallery PARC

本展を開催するにあたり、多くの皆様にご協力を賜りました。
ここに厚く御礼を申し上げます。（中尾美園）

田野葉月

宇野茂男　小倉実子　上池仁子　川下理恵　京町佳耶(藤井直子)
菅沼楓　高林弘実　田島達也　長嶋圭哉　中村麗子　培広庵　藤井素彦
本間裕徳　松井菜摘　渡辺亜由美

京都市立芸術大学芸術資料館　佐渡市立佐渡博物館　新潟県立美術館
新潟市美術館　知足美術館　大和文華館
公益財団法人 天一美術文化財団
笠岡市立竹喬美術館

〔助成〕
公益財団法人天一美術文化財団　京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業

中尾 美園

1980　大阪生まれ

2006　京都市立芸術大学大学院美術研究科保存修復専攻修了

2024　こまぎれの色どりたち(ギャラリー揺 / 京都)
日本国憲法展(無人島プロダクション / 東京)
2021　ボイスオーバー 回って遊ぶ声(滋賀県立美術館 / 滋賀)
2020　明日香の匠展(奈良県立万葉文化館 / 奈良)
2019　Roots Routes Travelers ルーツ・ルーツ・トラベラーズ(成安造形大学 / 滋賀)
ASYAAF2019(DDP / Seoul, South Korea)
2018　個展「うつす、うつる、」(Gallery PARC / 京都)
個展「あすの不在に備えて」(元崇仁小学校 / 京都)
個展「紅白のハギレ」(ギャラリー揺 / 京都)
2016　Assembriagege NAGOYA「パノラマ庭園 ―動的生態系にしるす―」(Botão Gallery / 愛知)
2015　個展「図譜」(Gallery PARC / 京都)
2014　シェル美術賞[入選](国立新美術館 / 東京)
2013　個展「いつかの庭」(KUNST ARZT / 京都)

エトランゼのまなざし、
不確かなおもざし

中尾 美園

Faraway : Nakao Mien Solo Exhibition

〔助成〕 公益財団法人天一美術文化財団 / 京都市「Arts Aid KYOTO」補助事業

2025年1月18日〔土〕―― 2月9日〔日〕

会期中に関連イベントの開催を予定しています。詳細はギャラリーのwebサイトでご確認ください。

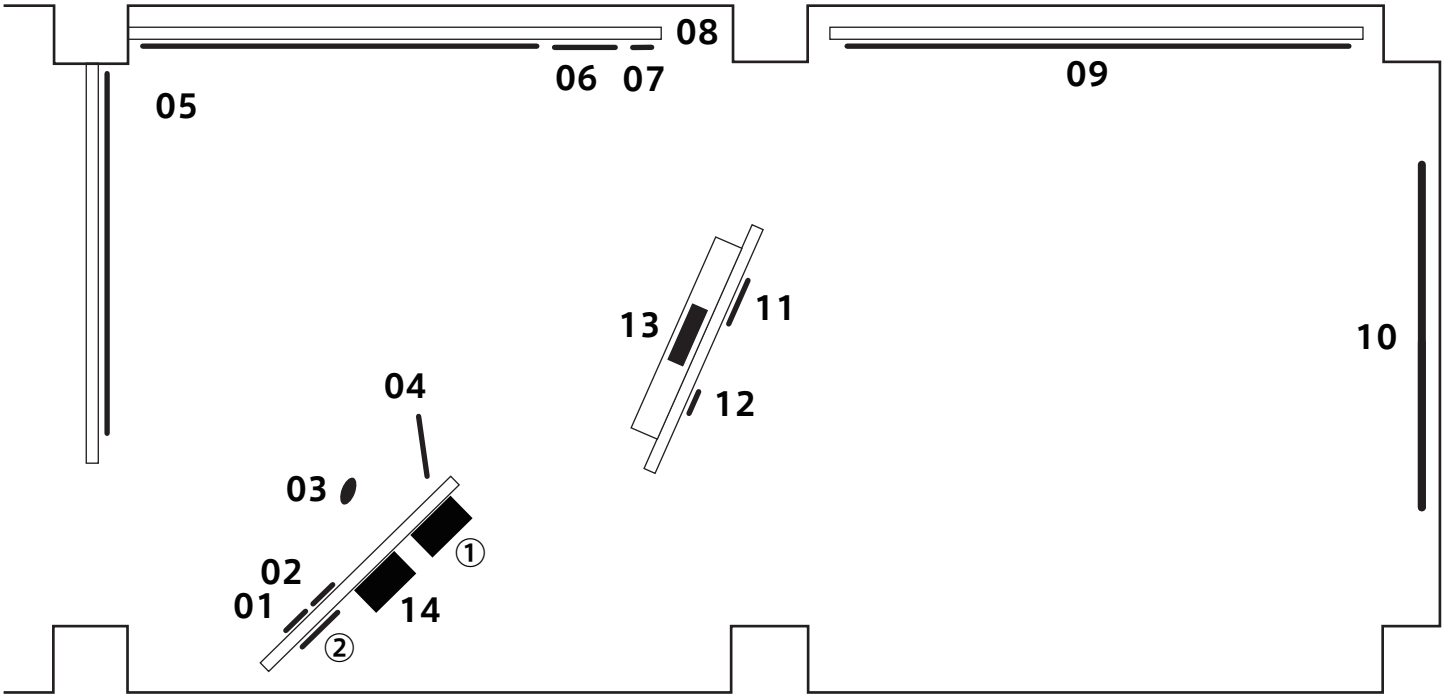
1969年(昭和44)2月5日に福島県郡山のホテルで、たくさんの人命が失われた火災事故が起きました。「名画を集めた東北随一のデラックスホテル」と銘打っていたホテルには、多くの絵画が飾られていましたが、それらも燃えてしまいました。その中に日本画家・小倉遊亀《裸婦》(1954年(昭和29))、土田麦僊《三人の舞妓》(1919年(大正8))が含まれていました。

2021年に滋賀県立美術館で開催された「ボイスオーバー 回って遊ぶ声」で、私は火災で焼失した小倉遊亀《裸婦》を再現模写するプロジェクトを作品にして展示しました。私はこの「消失」に向き合いながら、頭(文献)で理解することと、手を動かして描きながら理解していくことのズレの広がりには気づきはじめました。

昨年まで京都では役所の長が公の場に着物姿で公務を行っていたり、舞妓と一緒にイベントを行ったりしているニュースをよく目にしました。今でも、着物姿の観光客に交じって、本物の舞妓や芸妓が四条大橋を渡っている姿をみると、どこか場所が違っているような、時間軸のズレたような、物珍しさを感じることがあります。芥川龍之介は1916(大正5)年に発表した小説《野呂松人形》でこの奇妙な感覚を「étranger の感」と表現しています。

今回は土田麦僊《三人の舞妓》を再現模写いたします。写真を見ると、画面左にはシャボン液の入ったお猪口を持って首を傾けた立姿の舞妓、中央には座って茶碗を捧げ持つ赤い着物の舞妓、右には扇子を持って座り、うつろ気になをみつめる舞妓が描かれています。この絵は、今年2025年で、描かれてから106年、失ってから56年が経過しました。時代のズレは大きくなったり小さくなったり、また重なったりしています。再現模写を通して、失われた人・ものを理解するために情報を集め、あらたに形におこしていく過程ととまどいの記録と痕跡のありさまを展示いたします。

中尾 美園



01 小倉遊亀《裸婦》再現模写 雛型

2021年
墨、顔料、膠、雲肌和紙
原本焼失、模写(中尾制作)
所蔵:滋賀県立美術館

05 《松浦屏風》模写

2024年
墨、顔料、美濃紙

[原本] 国宝・婦女遊楽図屏風(松浦屏風)
江戸時代前期 紙本金地着色 六曲一双
所蔵:大和文華館
旧平戸藩主松浦家に伝来したことから「松浦屏風」の名で知られる。豪華な衣装をまとった遊女や禿をほぼ等身大で描き、遊里の享楽の様子が描かれている。時代は江戸時代前期から中期までと諸説あるが、遊女たちの首を傾けたポーズや、ウンスンカルタや煙管、ロザリオなどの珍奇な小道具類に南蛮文化の影響がみられ、慶長期の遊女が表現されている。

06 《松浦屏風》鑑賞と模写のメモ

2024年
墨、顔料、黒谷和紙

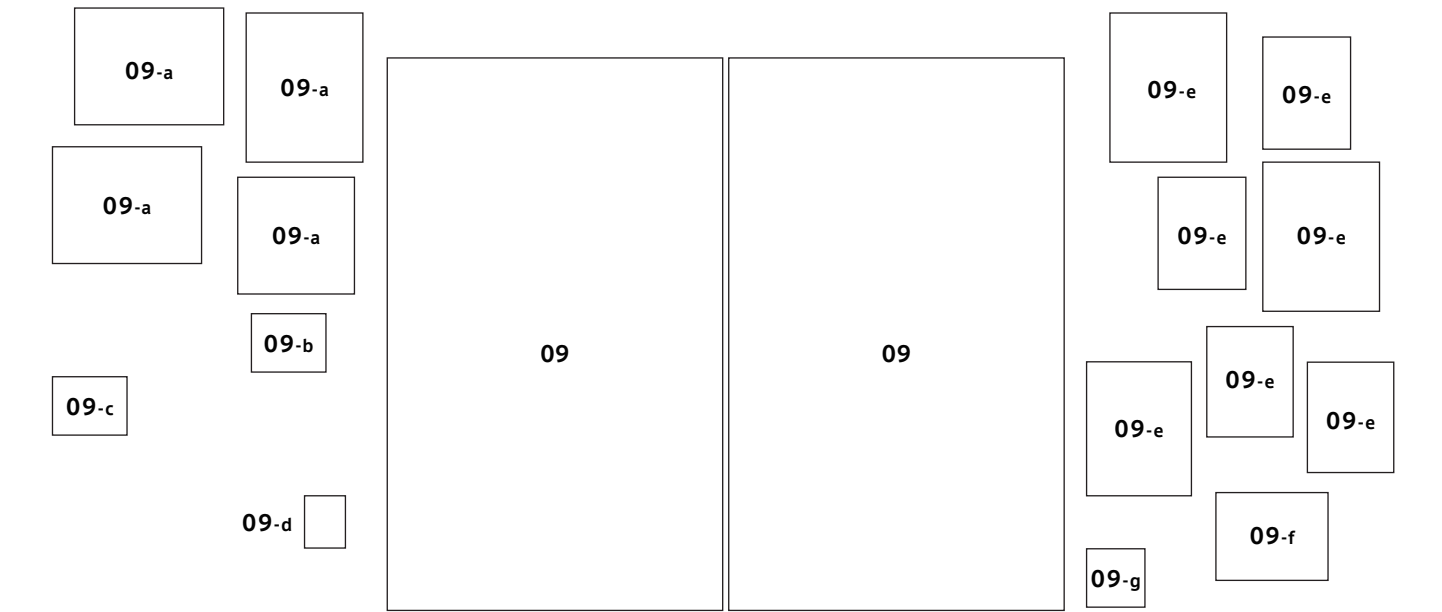
07 土田麦僊「《婦人髪を結ぶの図》解説」模写

2024年
墨、美濃紙

[原本] 「婦人髪を結ぶの図」『制作』第1巻第5号、制作社、1919年(大正8)4月

08 小説「土田麦僊《三人の舞妓》再現模写」
(作・朗読:中尾美園)

2025年
音声(5分19秒)



09 土田麦僊《三人の舞妓(大正8年)》再現模写のための大下絵

2025年
墨、鉛筆、顔料、模造紙

09-a 土田麦僊《三人の舞妓(大正5年)》素描模写

2024年
朱、画用紙
所蔵:新穂村教育委員会、新潟県立美術館、個人

[本図] 三人の舞妓
大正5年 絹本彩色
(私見メモ) 「松浦屏風」にみられるウンスンカルタに興じる女性像に着想を得て、3人の舞妓が「孔雀が羽を広げたような」美しさで扇状に画面に配して描かれている。取材は当初、別の料亭で舞妓をスケッチしていたが満足できず、料亭「一力」で本物の舞妓をモデルに呼び、スケッチを行った。
当時の舞妓は今より若く子供のような年齢で、取材に苦労したことを知人宛の手紙で吐露している。このころから朱色でスケッチするようになり、「舞妓の様なものは黒い墨の線より赤い線が何となく感じが出るから」としながら、西洋のサンギーン(赤茶色)を用いたスケッチからの影響も想像される。本作はポール・セザンヌの「カード遊びをする人々」の影響も考えられ、西洋を日本においてどう取り扱うかという近代日本の問題意識も感じられる。大下図が新潟市美術館に所蔵されているが、現在本作は行方不明。麦僊29歳の時の作品。

09-b 土田麦僊《三人の舞妓(大正5年)》写生

2024年
墨、顔料、黒谷和紙

09-c 田中日佐夫「戦後美術品移動史」模写

2024年
墨、美濃紙

[原本] 田中日佐夫「戦後美術品の移動史(46)山種美術館と山崎種二の蒐集(II)」『芸術新潮』1976年10月

09-d ピエール=オーギュスト・ルノワール《すわる
ジョルジェット・シャルパンティエ嬢》スケッチ

2024年
色鉛筆、画用紙

[原本] 《すわるジョルジェット・シャルパンティエ嬢》
ピエール=オーギュスト・ルノワール
1876年 油彩、キャンバス 所蔵:アーティゾン美術館
(私見メモ) 土田麦僊は著作の中で松浦屏風を甘い歓楽の世界と評しながら、「思想のない芸術を蔑視するならば蔑視するのもいい、しかし私は シアン、ルノワールも亦敬愛せずに居られない。」としている。麦僊の描く丸顔の女性はルノアールを彷彿とさせる。1922年(大正11)には、ルノアールの旧宅を訪ね、子息に会い、絵まで購入している。

09-e 土田麦僊《三人の舞妓(大正8年)》素描模写

2024年
朱、美濃紙

[原本] 所蔵:新穂村教育委員会、新潟県立美術館、個人

09-f 舞妓を写生する土田麦僊の白黒写真スケッチ

2024年
鉛筆、画用紙

09-g 土田麦僊 筆跡模写

2024年
墨、美濃紙